

項目	観点	教科書名
		新しい科学(2・東書)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するために、どのような工夫がされているか。	【探究の過程を漫画で示すとともに、探究のフローチャートも脚注に示すことで、探究の見通しをもてるように配慮されている。】  ・巻頭に「科学で調べてみよう」と題して、問題発見→仮説(課題に対する自分の考え)→構想(実験計画立案)→分析・解釈(考察)という探究の流れが教科書ではどの場面に当たるかを例示し、探究の過程を踏まえた学習活動が進められるように配慮されている。  ・巻頭・巻末や単元末、各章の導入部において、身の周りの事象について考えさせる場面を設ける。生徒の興味関心を高め、主体的に探究しようとする態度が養われるよう配慮されている。  ・「結果の見方」と「考察のポイント」によって、結果の分析や考察の視点を示し、結果を事実として認識させ、根拠に基づいて考察できるように配慮されている。 ・「課題に対する結論を表現しよう」で、各章の結論を生徒が自分の言葉でまとめようとしている。また、章末に結論の例を示し、確認できるように配慮されている。  ・「学習内容の整理」として単元のため、「確かめと応用」として章末問題や課題、学習した内容の復習と知識の定着が図られるよう配慮されている。  ・高等学校で学習する「発展」や「科学の歴史」、「つなげる科学」などのトピックスが随所に掲載されている。
	○主体的・対話的で深い学びの実現のために、どのような工夫が見られるか。	【探究の過程のポイントとなる場面で脚注に見方・考え方を示したり、学んだこととを活用する学習活動を設定したりするなど工夫が見られる。】  ・全ての節の導入において、問いかけを配置したこと、生徒の主体性を高めることができるよう配慮されている。 ・小単元の導入で「レッツスタート」という生徒が自ら気づきを得たり、認知制覇を生じさせたりする問いかけの設定があり、主体性を高める工夫がされている。  ・単元の始めに「これまでに学んだこと」で既習事項を、「この単元で学ぶこと」で単元の学習の見通しをそれぞれ確認することで、主体的な学びを促す工夫がされている。 ・随所に学習内容に関する自発的な疑問や意見がキャラクターどうしの対話として取り上げられており、関心を高め、考えを巡らせたり、新たな疑問を見出したりするための学習サポートが施されている。  ・各章の始め(章扉)と終わり(章末)にその章の本質的な問いかけ「Before and After」を設け、章ごと学習の振り返りができるように工夫されている。  ・小単元末の「探究を振り返ろう」で学習の振り返りを自分の言葉で考え表現できるように工夫されている。  ・単元末に「学びをいかして考えよう」が設定されており、新たな問題発見のきっかけとし、深い学びへとつなげる工夫がされている。  ・巻頭の「考えが異なったら、考えを言葉にして議論しよう」で、対話的な学びにおける議論の進め方・ポイントが示されている。
2 内容の程度及び取扱いについて	○自然の事物・現象から生じた疑問から観察・実験の課題が設定される学習の流れが示されており、主体的に取り組む態度を喚起する工夫がされている。	【巻頭・巻末に探究の過程を示すとともに、全学年の単元末には探究する活動を取り入れ、学びを深められるように配慮されている。】  ・巻頭の「理科の学習の進め方」をもとに学習を進めることで、生徒が見通しをもって探究を進められるようにし、思考力・判断力・表現力等が育まれるよう配慮されている。  ・「探究過程の中で、問題発見(1年)、解決方法立案、結果分析・解釈(2年)、探究過程の振り返り(3年)など各学年で重視する資質・能力の項目をマークで強調し、それらを意識して活動できるように配慮されている。」 ・各単元の扉などにダイナミックな写真やイラストを使用したわかりやすい資料を掲載し、生徒の興味・関心を高め、自然の事物・現象に意欲的に関わろうとする態度が育まれるよう配慮されている。 ・「基本操作」では、よく用いられる観察・実験器具について図・写真やイラストで手順をわかりやすく示し、基本的な操作が身につくよう配慮されている。器具によって操作方法的な動画も視聴できるように配慮されている。 ・観察・実験の解説では「目的」に加えて「着目点」を記載し、探究の方向が示されている。 ・観察・実験には必ず「結果から考えよう」を設け、考察するポイントを示し、次のページに結果の例を示すことで、考察する力が養えるよう配慮されている。 ・各単元末には「まとめ」が設けられ、単元全体のキーワード(重要語句)の確認や基礎事項の整理ができるよう配慮されている。 ・単元末に「単元末問題」「読解力問題」を配し、学んだことを活用して考えたり、表現したりすることで思考力・判断力・表現力等が育まれるよう配慮されている。 ・随所に「くらしの中の理科」「科学のあしあと」「Science Press」「professional」など日常生活との関連が深い読み物や科学史、最新の科学的知見などが掲載されており、関心を高め、学ぶ意義や有用性を実感できるように工夫されている。
	○自然の事物・現象から生じた疑問から観察・実験の課題が設定される学習の流れが示されており、主体的に取り組む態度を喚起する工夫がされている。	【探究の過程の真を折り込みで観たり、本文に探究の過程の学習を充実させ、系統的に資質・能力を身に付けられるように配慮されている。】  ・「探究の進め方」として、巻頭に基本的な探究の順序を示すとともに、各単元が「疑問を見つける」「課題を決める」「仮説を立てる」「計画を立てる」「観察する」「実験する」「結論を出す」「結果をまとめる」の順で展開され、生徒が見通しをもって学習が進められるよう配慮されている。  ・各章の導入では、調べてみたくなる魅力ある事象や二つの異なる事象をダイナミックなイラストや写真で効果的に提示し、生徒が自然に対して関心や調べたい意欲が持てるよう配慮されている。  ・観察・実験器具の器具の扱い方を示した「基礎技能」のページを設け、必要な技能を習得できるように配慮されている。 ・「観察する」「実験…から」「観察…から」の表示を付し、観察・実験の結果をもとにした考察を示唆したり、予想と結果の一致・不一致を考えさせたりする場面を設け生徒が科学的に課題を解決できるように工夫されている。  ・各単元末に「要点と重要用語の整理」や基本問題とを設け、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるように配慮されている。  ・考えよう、話し合おう、活用しよう、ハローサイエンス、科学者列伝など、学習内容を深めたり、興味関心を高める工夫がある。
3 配列・分量	○教材の配列、分量には、どのような特色があるか。	【探究の過程を漫画で示すとともに、探究のフローチャートも脚注に示すことで、探究の見通しをもてるように配慮されている。】  ・「結果の見方」と「考察のポイント」によって、結果の分析や考察の視点を示し、結果を事実として認識させ、根拠に基づいて考察できるように配慮されている。 ・「課題に対する結論を表現しよう」で、各章の結論を生徒が自分の言葉でまとめようとしている。また、章末に結論の例を示し、確認できるように配慮されている。  ・「学習内容の整理」として単元のため、「確かめと応用」として章末問題や課題、学習した内容の復習と知識の定着が図られるよう配慮されている。  ・高等学校で学習する「発展」や「科学の歴史」、「つなげる科学」などのトピックスが随所に掲載されている。
	○教材の配列、分量には、どのような特色があるか。	【探究の過程のポイントを定める場面で脚注に見方・考え方を示したり、学んだこととを活用する学習活動を設定したりするなど工夫が見られる。】  ・全ての節の導入において、問いかけを配置したこと、生徒の主体性を高めることができるよう配慮されている。 ・小単元の導入で「レッツスタート」という生徒が自ら気づきを得たり、認知制覇を生じさせたりする問いかけの設定があり、主体性を高める工夫がされている。  ・単元の始めに「これまでに学んだこと」で既習事項を、「この単元で学ぶこと」で単元の学習の見通しをそれぞれ確認することで、主体的な学びを促す工夫がされている。 ・随所に学習内容に関する自発的な疑問や意見がキャラクターどうしの対話として取り上げられており、関心を高め、考えを巡らせたり、新たな疑問を見出したりするための学習サポートが施されている。  ・各章の始め(章扉)と終わり(章末)にその章の本質的な問いかけ「Before and After」を設け、章ごと学習の振り返りができるように工夫されている。  ・小単元末の「探究を振り返ろう」で学習の振り返りを自分の言葉で考え表現できるように工夫されている。  ・単元末に「学びをいかして考えよう」が設定されており、新たな問題発見のきっかけとし、深い学びへとつなげる工夫がされている。  ・巻頭の「考えが異なったら、考えを言葉にして議論しよう」で、対話的な学びにおける議論の進め方・ポイントが示されている。
4 表記・体裁	○表記や表現、体裁についてどのように配慮されているか。	【探究の過程を漫画で示すとともに、探究のフローチャートも脚注に示すことで、探究の見通しをもてるように配慮されている。】  ・「結果の見方」と「考察のポイント」によって、結果の分析や考察の視点を示し、結果を事実として認識させ、根拠に基づいて考察できるように配慮されている。 ・「課題に対する結論を表現しよう」で、各章の結論を生徒が自分の言葉でまとめようとしている。また、章末に結論の例を示し、確認できるように配慮されている。  ・「学習内容の整理」として単元のため、「確かめと応用」として章末問題や課題、学習した内容の復習と知識の定着が図られるよう配慮されている。  ・高等学校で学習する「発展」や「科学の歴史」、「つなげる科学」などのトピックスが随所に掲載されている。
	○表記や表現、体裁についてどのように配慮されているか。	【探究の過程のポイントを定める場面で脚注に見方・考え方を示したり、学んだこととを活用する学習活動を設定したりするなど工夫が見られる。】  ・全ての節の導入において、問いかけを配置したこと、生徒の主体性を高めることができるよう配慮されている。 ・小単元の導入で「レッツスタート」という生徒が自ら気づきを得たり、認知制覇を生じさせたりする問いかけの設定があり、主体性を高める工夫がされている。  ・単元の始めに「これまでに学んだこと」で既習事項を、「この単元で学ぶこと」で単元の学習の見通しをそれぞれ確認することで、主体的な学びを促す工夫がされている。 ・随所に学習内容に関する自発的な疑問や意見がキャラクターどうしの対話として取り上げられており、関心を高め、考えを巡らせたり、新たな疑問を見出したりするための学習サポートが施されている。  ・各章の始め(章扉)と終わり(章末)にその章の本質的な問いかけ「Before and After」を設け、章ごと学習の振り返りができるように工夫されている。  ・小単元末の「探究を振り返ろう」で学習の振り返りを自分の言葉で考え表現できるように工夫されている。  ・単元末に「学びをいかして考えよう」が設定されており、新たな問題発見のきっかけとし、深い学びへとつなげる工夫がされている。  ・巻頭の「考えが異なったら、考えを言葉にして議論しよう」で、対話的な学びにおける議論の進め方・ポイントが示されている。